

素謡会の魅力

◇当日の見どころ

ただでさえ質素な能舞台にありながら最もエコな上演形式「素謡」。素謡とは、能の演目を謡（声楽）のみで表現します。装束を使わず、立ち舞う事をせず、ただ謡のみの歌唱で一番を表現します。囃子也没有。では演者は何を狙って何を表現しようとしているのか？それは演目のイメージを謡だけで印象付けていくことに直向きに取り組んでいきます。ではどのようなイメージを創りたいのでしょうか。

当日は五番立て（能の群類分け）に則って、五つの作品が上演される一日となりますが、連吟・仕舞は作品の一部のみご覧頂く様式です。

「賀 茂」標準的な謡の抑揚に慣れて頂く10分間。能楽は古典でありながら現代では女流も活躍する啓かれた伝統芸能です。女性特有の声の響きをお楽しみください。

「忠 度」舞に特化しますが、中盤には舞いながらの長ゼリフの場面もあり見処満載の10分間。

「松 風」謡の技巧を存分に味わって頂く50分間。

「弱法師」道具（杖）を使った細やかな描写や感情の起伏まで表現される変化に富んだ5分間。

「安達原」静と動を大きく彩り分ける35分間。

謡のみで表現される演出を想像してみてください。ラジオを聞いている、その様な解釈に近いかもしれませんね。さらに、生の舞台では、肌に振動を感じられることが魅力の一つとなります。和太鼓ほどの強さは無いかもしれませんが、人の声でも地謡(コーラス)となると、日常にはないビートが産み出されます。その臨場感をお楽しみください。そして、物語の登場人物の静寂な情景描写や心情表現、穏やかに流れる時間に同調して頂けたら成功です。演者が行っている息継ぎを真似てみると良いかもしれません。とてもゆったりとした呼吸を繰り返しています。1分間に2、3回の息継ぎしかしない事も、舞台上ではごくごく通常的に行われているのです。しかし、どんなにゆっくり感じる場面にも流れがあります。音の無い時間・言葉の無い時間も流れの一つです。舞手の居ない上演形式だからこそ、それらの間(ま)を深く味わって頂ける機会だと思えます。